

台風や集中豪雨が多く発生する季節です 風水害への心構えと準備 忘れずに



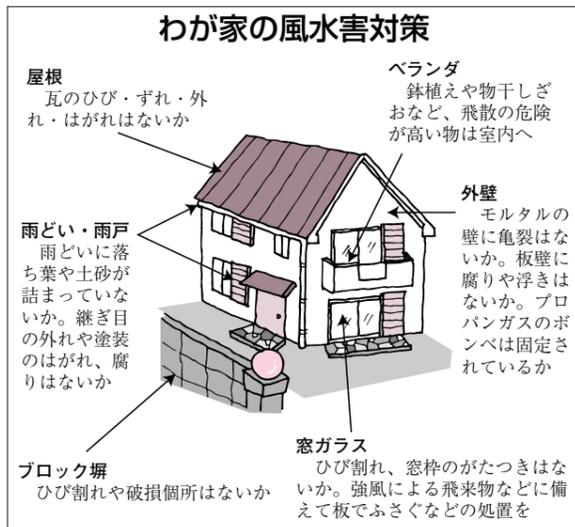
今年の大雨で増水した利根川（7月19日）

大正十二年九月一日に発生した関東大震災の悲惨な状況を伝え、その教訓を生かすために、毎年九月一日は「防災の日」に定められています。これからの季節は、台風や発達した雨雲の影響で大雨が降りやすく、毎年、全国各地で豪雨と強風による被害が発生しています。被害を最小限に抑えるためには知識と事前の対策が必要です。ここでは風水害に備え、あらかじめ用意する物や注意点を紹介します。

問い合わせは安全安心課 ☎890-5935へ。

大きさ		強さ	
階級	風速秒速15m以上の半径	階級	最大風速
表現なし	500km未満	表現なし	毎秒17m以上33m未満
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	毎秒33m以上44m未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	毎秒44m以上54m未満
		猛烈な	毎秒54m以上

区分	条件	伝達内容	伝達方法
避難準備情報	災害発生のおそれがあり、事態の推移によっては避難の勧告、指示などを実施する必要が予想される	勧告者、危険予想地域、避難準備すべき理由、避難に際しての携帯品、避難方法	自治会組織による伝達、広報車による伝達、防災行政無線、必要に応じてテレビ放送、ラジオ放送を併用する
避難勧告	当該地域、土地建物などに災害が発生する恐れがある	勧告者、避難すべき理由、避難先、避難所に至る経路	自治会組織による伝達、広報車による伝達、防災行政無線、必要に応じてテレビ放送、ラジオ放送、口頭による伝達、サイレンを併用する
避難指示	状況が悪化し、避難すべき時期が切迫した場合、または既に災害が発生しその現場に残留者がいる	指示者、避難すべき理由、避難先、避難所に至る経路	



区分	注意報	警報
風	(強風注意報) 平均風速がおおむね毎秒13mを超え、主として強風による被害が予想される	(暴風警報) 平均風速がおおむね毎秒18mを超え、重大な災害が起こる恐れがあると予想される
大雨	(大雨注意報) かなりの降雨があつて被害が予想される	(大雨警報) 大雨によって重大な災害が起こる恐れがあると予想される
洪水	(洪水注意報) 大雨、長雨、融雪などで河川の水が増し、そのため河川の堤防、ダムに損傷を与えるなどで災害が起こる恐れがあると予想される	(洪水警報) 大雨、長雨、融雪などで河川の水が増し、そのため河川の堤防、ダムに損傷を与えるなどで重大な災害が起こる恐れがあると予想される

風速	被害状況
風速10m/秒	傘が差せない
風速15m/秒	看板やトタン板が飛び始める
風速20m/秒	小枝が折れる
風速25m/秒	瓦が飛び、街路樹が倒れる
風速30m/秒	雨戸が外れ、家が倒れることもある

1時間の雨量	雨の降り方
8~15mm	雨の音が聞こえる
15~20mm	地面一面水たまり。雨音で話し声がよく聞こえない
20~30mm	土砂降り。側溝がたちまちあふれる。大雨注意報
30~50mm	バケツをひっくり返したよう。大雨警報
50mm以上	滝のように降る。土石流が起こりやすい

過去に本市でも多くの被害に

本市は、「水と緑と詩のまち」といわれるように、市内を利根川や広瀬川、桃ノ木川、荒砥川、粕川などが流れ、自然の恵みをもたらしています。しかし、古くから水害も多く発生しています。特に昭和二十二年のカスリン台風では、市域の多くが水没しました。翌年にはアイオン台風、二十四年のキティー台風と、三年続けて台風の被害を受けています。最近では、昭和五十六年の台風15号、五十七年の台風10号、五十八年の台風18号などが、大きな被害をもたらしました。

昭和六十一年以降は、雷雨による集中豪雨から発生する浸水害が多く見られます。特に平成九年九月の集中豪雨では、一時間の降水量が百mmを超え、四百棟以上の建物などに被害が発生しました。昨年からは今年にかけて、本市への台風直撃はありませんでしたが、注意が必要です。

万が一に備えて対策しっかりと

■集中豪雨に注意を
集中豪雨は、狭い地域に短

気象情報に注意し速やかな行動を

集中豪雨や台風などで避難するときは、単独行動は避け、地域の人と協力し合つて避難しましょう。お年寄りや体の不自由な人、病人などがある家庭は、特に早めの行動が必要です。避難勧告を受けたら、危険が迫っているため速やかに避難を。また勧告がなくても、危険と判断したら自主的に避難しましょう。避難するときは、電気やガスなど火の始末、戸締まりを確実に。また、行動しやすい服装で丈夫な運動靴、手袋なども持ちましょう。なお、災害が発生またはその

時間で大量に降るため、予測が非常に困難です。中小河川のはらんや土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予想されます。がけ付近や造成地、扇状地などでは、気象情報に十分注意して、万全の防災対策を取りましょう。なお、一時間の雨量と降り方などについては表1のとおりです。

■台風に備えた対策

台風や豪雨は、事前の対策次第で被害を最小限に食い止めることができます。油断せず、日ごろから十分な対策を立てておきましょう。

- 日ごろからの心構えと準備
家の近くの危険場所と避難場所を確認。いざというときのために、非常食や飲料水、懐中電灯、携帯ラジオ、予備の電池などを準備しておきましょう。
- 台風が近づいたら
なるべく外出しないようにしましょう。瓦や窓などを点検し、商店などで看板がある場合は風で飛ばされないように固定しましょう。風速と予想される被害については表2のとおり。また、浸水などの恐れがあるときは、家財道具や生活用品を高い所へ移動しておきましょう。

の恐れがあるとき、市長は状況に応じて「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」を発令(表3のとおり)。速やかに指示に従ってください。

■気象情報を正しく理解
台風や前線の活動などで強い雨が降り始めたら、テレビやラジオの気象情報に注意を。気象庁では、台風の勢力を示す目安を表4のとおり大きさと強さで表します。使われる言葉を正しく理解し、慌てずに予防策を立てましょう。なお、注意報や警報の基準は表5のとおりです。

また、インターネットでも雨量情報などを確認できます。主なホームページは表6のとおりです。

自主防災会を組織しましょう

大規模災害が発生したとき、住民が自主的に救出、救助、初期消火、安全な避難誘導などを行う組織が自主防災会。阪神淡路大震災では、倒壊した家屋に挟まれた多くの人を救助し、成果を上げました。本市では現在、百十の自治会で自主防災会を設立しています。安全安心課では設立・活動について方法や手順をアドバイスします。